

社会総がかりで、愛媛の子どもたちを健やかに育てよう！

愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い

「学校・家庭・地域連携推進事業」普及啓発事業



1 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」とは？

愛媛県教育委員会では、幼稚園から高等学校までの保護者・教職員及び教育支援関係者、福祉関係者、企業関係者等が一堂に集い、学校・家庭・地域が連携した県民総ぐるみによる教育支援体制づくりについて学び合うため、平成25年度から毎年「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」を開催しています。



2 今年度の「集い」の内容

(1) 開催方法

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンデマンド配信にて実施
- 令和3年10月1日（水）～31日（日）の期間に、各分科会の事例発表等をYouTube（限定公開）で配信（総視聴回数 1,049 回）

(2) 内容

5つの分科会を設定し、各地域で熱心に活動している2つの事例を発表していただきました。それぞれの活動に対する質疑応答と指導助言により、学びを深めました。

第1分科会【地域学校協働活動】

幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか
〈発表1〉 光り輝け 城南プライド ～地域住民とともに～

城南中学校区地域学校協働本部

宇和島市立城南中学校 教頭 中井 孝一

〈発表2〉「川の江先輩塾」 ～先輩（地域）から後輩へつなぐ“学び”の襷(たすき)

川の江先輩塾 江南ラミネート株式会社 代表取締役 石川 克晴

愛媛県立川の江高等学校 教 頭 桑原 光章

代表生徒 2名

〈助言者〉

愛媛大学大学院教育学研究科 特定教授 遠藤 敏朗



第2分科会【地域による教育機会の充実】

全ての子どもたちへの教育機会の充実を図るために地域の支援体制づくりをどのように進めるか

〈発表1〉 上島町でみえた過疎地域の教育の課題

うらしま学舎 塾長 中裏 修平

(元上島町公営塾ゆめしま未来塾 塾長)

〈発表2〉 学び舎事業 ～地域の力で学力向上をめざして～

西予市学び舎事業 指導者 兵頭 豊司

〈助言者〉

今治明德短期大学 副学長 泉 浩徳



第3分科会【子育て・家庭教育支援】

保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか

〈発表1〉 子育てを楽しめる身近な活動を

あいなん子育て応援グループ チーム員 中尾 房子

〈発表2〉 コロナ禍での子育て相談 ～SNSを活用して～

NPO法人子育てネットワークえひめ 代表理事 山本由美子

〈助言者〉

愛媛大学 名誉教授 讃岐 幸治



第4分科会【放課後・休日の子どもの支援】

子どもたちの放課後等の豊かな教育活動をどのように進めるか

〈発表1〉 放課後子ども教室 ～豊かな教育活動を目指して～

東温市教育委員会生涯学習課 主任主事 田村 祐治

〈発表2〉 里山の生活体験教室

西条市大保木公民館 館長 近藤 俊雄

主事 岩間 好美

〈助言者〉

愛媛大学教育学部 准教授 山田 誠



第5分科会【ICT時代の教育支援】

子どもたちのICT環境が大きく変化する中で、地域の教育支援をどのように進めるか
(発表1) 地域と学びをつなげるICT教育

うちこ未来塾 指導者 武田 惇奨
内子町教育委員会学校教育課 課長補佐 谷水 健二

(発表2) ネットトラブルから子どもたちを守るための取り組み

松山市小中学校PTA連合会 会長 河崎 元

(助言者) 愛媛県総合教育センター情報教育室 室長 谷山 伸司



3 アンケート結果、参加者の感想等(アンケート回答者 137名)

【参加者の感想(オンデマンド配信について)】

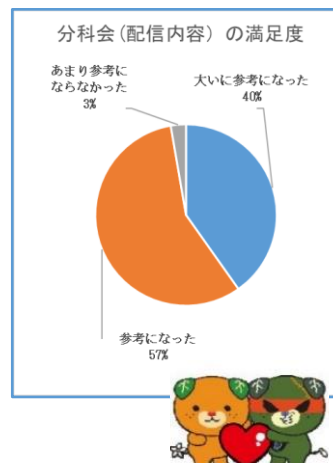
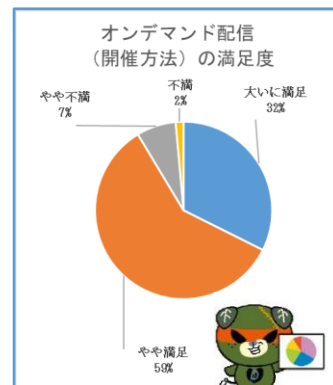
- 家で子どもがいる状況でも、ゆっくり視聴することができ、聞き逃しても何度も見直すことができる等、研修を深めることができた。
- オンデマンド開催では自分の都合の良い時に視聴できるという利点を感じるが、個人的には会場でリアルタイムに質疑応答や意見交換をできる方が良いと思う。
- このような分科会のある大会では、同じ関心をもっている人と様々な情報を交換しながら参加できるのが一番のメリットだと考えるのでオンデマンドでの開催は残念であった。

【参加者の感想(分科会について)】

- 愛媛県全体で地域と学校が密に連携し、子どもの成長につながる取組がたくさんなされていることを知った。課題は地域ごとによって様々だと思うが、今後も地域に密着し、そこでしか得られなかった学習を通して、相互の課題解決に向けた取組を継続していただければと思った。
- 各世代でいろいろなことにチャレンジしながら、少子化や過疎化に取り組んでいると思った。子どもの授業でプログラミング、タブレットが身近になってきたので、大人(親)である私たちもきちんと学び、サポートしていきける環境を整える必要があると思った。
- 地域と学校・行政の連携で生きがいづくり・居場所づくり・地域住民による子育てを楽しみながら、コロナに負けず頑張っている姿に感動した。私たちの子ども食堂もそうだが、希望者全員に機会が与えられる環境が整備され、受け入れができると嬉しい。

【参加者からの提言】

- PTA活動も縮小され、保護者同士の横のつながりも希薄になっている。各々が今回の大会のような活動に参加することで、少しでも子どもたちのために、社会とつながれるのではないかな。
- 「社会が子どもを育てる」いろいろな勉強だけでなく、実際の社会に触れることは、人生において大事なことである。勉強がもっと実生活につながるものだったら、もっと、勉強する意味をもち、子どもたちの学習意欲にもつながるように思う。勉強は、受験ではなく、実生活のためのものであってほしいし、実生活に役立ち、地域に役立てることが大切だ。
- 学校だけ、教員だけで何でも進めていく時代は終わったと思う。これからは、家庭や地域の力を借りながら、ともに子どもたちのために何ができるかを考えて実行していかなくてはならない。学校・家庭・地域が一体となって、愛媛の子どもたちを健やかに育てていかなくてはならないと思う。



オンデマンド配信については、初めての試みでしたが、時間や場所の制限なく自由に参加できることから、参加者アンケートでは91%の肯定的な評価をいただきました。

また、今年度は分科会のみでの配信となりましたが、満足度は97%と高い評価となっており、新しい「集い」の形を提案することができました。回数を重ねるごとに大会全体の満足度が向上しており、今後も、現代的課題に沿ったテーマを設定し、参加者属性やニーズ、現代的課題と社会の要請等を検討しながら、学校・家庭・地域の連携・協働について、社会総がかりで考えていく「集い」にしたいと考えています。ぜひ、令和4年度も御期待ください。

なお、これまでの「集い」のダイジェストや今後のお知らせ等を県教育委員会社会教育課HPに掲載しております。お時間がありましたら、御覧ください。

(<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/tsudoi/tsudoi-top.htm>)

